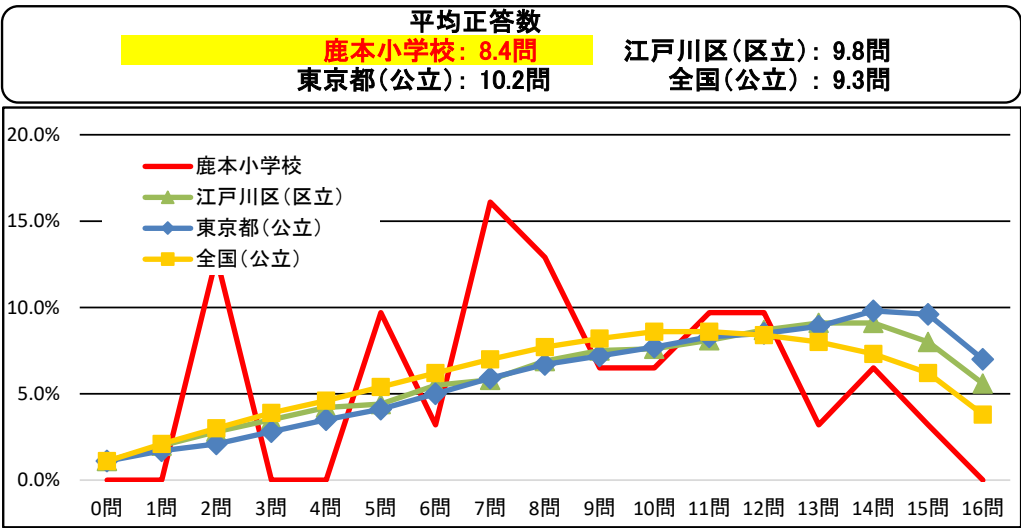


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】 鹿本1442小学校

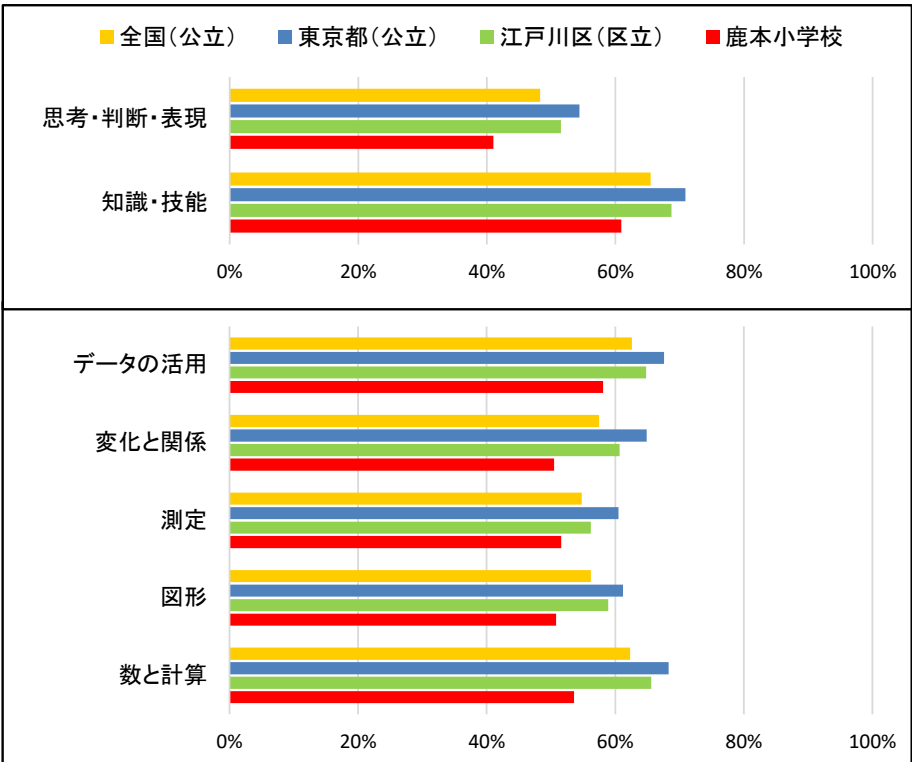
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

鹿本小学校	52%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	-12.0

「領域別」の結果

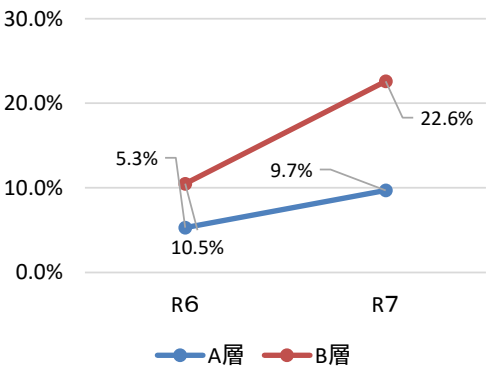


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

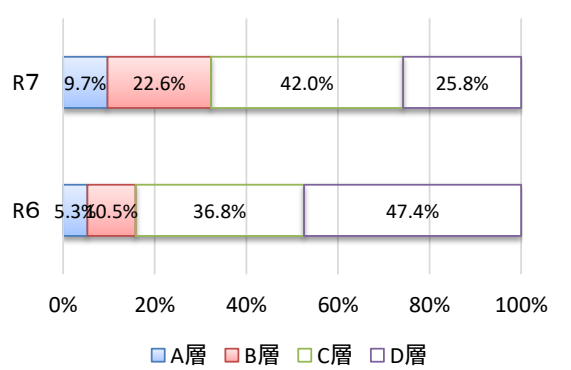
算 数	上位 ←		→ 下位	
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
鹿本小学校	9.7%	22.6%	42.0%	25.8%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

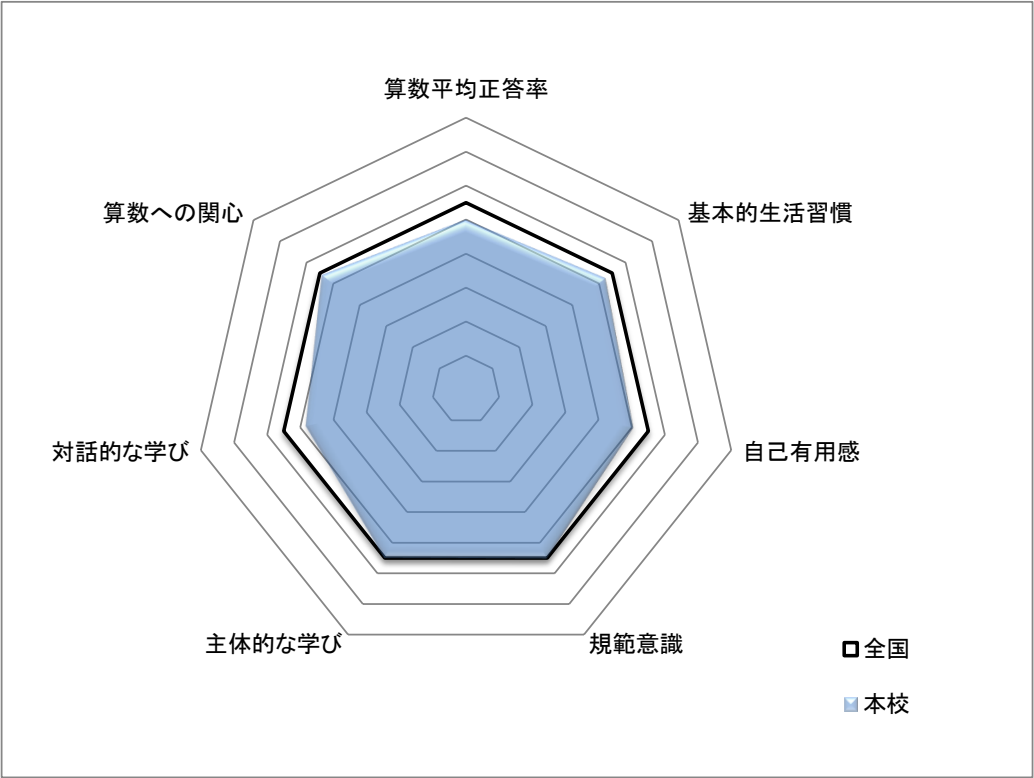
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

(できている所)
算数の学習に対する興味・関心。主体的な学びや、規範意識は、全国平均に到達している。
(課題)
学級の友達との間で話し合うことを通じて、自分の考えを深めることや新たな考えに気付いたりすることの意識が低い。
学んだことを活かして勉強に取り組む児童が少ない。

《家庭・地域への働きかけ》

保護者会等で学力について報告。
区の学力調査の結果をもとに成果と課題をあげる。
夏の個人面談等で、結果を返却し解説をしながら保護者に渡す。
長期休業では、苦手なところの復習を中心に、家庭でも取り組む旨を伝える。
必要に応じて、放課後補習への参加希望を聞く。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
(結果)A層が昨年度より4.4%上昇、B層も12.1%上昇した。
(取り組み)タブレットを活用し、ドリルパークを行う。
朝学習やマスターバンビで短時間で集中して行う習慣を付ける。
既習事項も繰り返し反復練習を行い、定着を図る。

《学校の取組》

・教員の指導力向上
区算数授業スタンダードを活用した分かりやすい授業展開をする。
授業の毎時間、ゴールを明確にする。(めあてやまとめを必ず書くようにする)
交流活動を少人数にし、自信をもって参加できるように支援する。
個別に声をかける。

・基礎学力の保障

東京ベーシックドリルの診断テストを実施する。
苦手な単元をドリルパークを活用し、復習を行う。
家庭学習(音読、漢字、計算などの宿題)を行う。
放課後補習での個別対応。

・学習習慣の確立

毎日、学年×10分+10分間は机に向かうように習慣付ける。
ドリルパークの活用。
個別に声をかける。(休み時間に補習をしたり、放課後補習教室で補習を行う。)
夏休みの課題として、ドリルを個別に購入し、学力の定着を図る。

・AB層の育成

新しい単元を学習する前に既習事項を確認し、学習を進める。